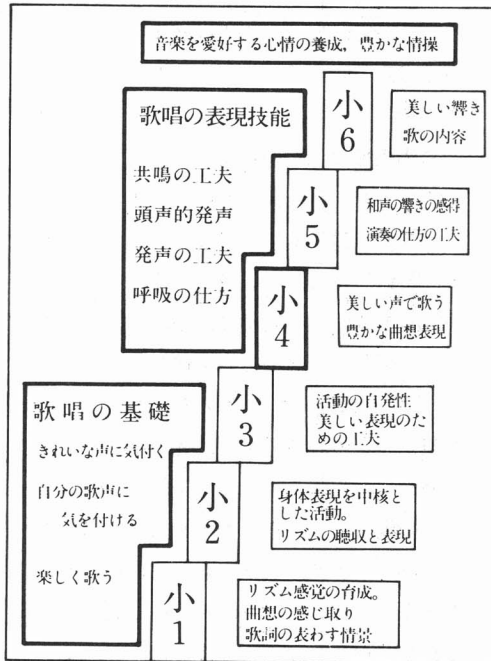


「もみじ」（文部省唱歌・中野義見編曲）を教材として例に取り、指導のための一考察を試みる。

(1) 歌唱表現の能力に関する主な指導事項



(2) 歌唱表現の指導目標

曲想を味わい、旋律の美しさを感じ取らせるとともに、美しく豊かに響く声で表現させる。

音楽の美しさを感じ取らせるとともに、低学年で身についた興味・関心を更に高め、音楽活動をしようとする意欲を育てることによって、活動への自発性を伸ばしていきたい。

この歌唱指導では、曲想表現の能力と、歌唱の技能を高めるために、児童一人一人の発達段階を考慮しながら、次の事項に心掛け、豊かな表現能力を身につけさせたい。

- ① 曲想を感じ取り、歌詞の内容を理解して演奏の仕方を工夫する。
- ② 呼吸の仕方に気を付けて、頭声的発声で歌う。
- ③ 音の重なりを感じ取り、楽しく輪唱や、合唱をする。

もみじ

文部省唱歌  
中野義見 編曲

♩ = 88-96

(3) 教材「もみじ」について

高野辰之作詞、岡野真一作曲による。

明治44年「尋常小学唱歌」にて発表される。

2部形式で、同じようなリズムパターンである。旋律はゆるやかで、大きなフレーズを感じ取ることができる。

気持ちを込めた歌唱表現をするためには、歌詞の内容を理解させることが大切である。歌詞を朗読させて、情景を思い浮かばせるなどして、曲趣を感じ取らせることは、創造的な歌唱表現や、豊かな曲想表現を支える基礎となるものである。ここでは、自然の雄大さ、美しさ、もえるような、あざやかな紅葉、澄んだ川の流れ、そして、絵画的描写の秋の山と静けさの夕日、など、言葉や詞の味わいを感じて、美しい声で表現する工夫をさせることが重要である。